

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 5月31日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2010～2012

課題番号：22530915

研究課題名（和文） 東アジア諸国・地域における大学院入学者選抜制度の比較研究

研究課題名（英文） A Comparative Study on the Admission System of Graduate Education in the East Asian Countries and Regions

研究代表者

南部 広孝 (NANBU HIROTAKA)

京都大学・大学院教育学研究科・准教授

研究者番号：70301306

研究成果の概要（和文）：本研究は、東アジア諸国・地域における大学院入学者選抜制度の概要と改革動向を、大学入学者選抜制度の状況をふまえて、比較検討したものである。主たる対象は中国、台湾、韓国とわが国である。各国横断的に見れば、各国における大学入学者選抜と大学院入学者選抜の間には一定の共通性が存在し、選抜に対する一定の考え方があることが想定される一方、大学入学者選抜と大学院入学者選抜という段階に着目すれば、どの国でも大学院入学者選抜の方が大学（募集単位）の自主性に基づく選抜方法が選択されていることが明らかとなった。

研究成果の概要（英文）： The purpose of this study was to clarify the characteristics and the trends of the reform of admission system of graduate education in the East Asian countries and regions, through the comparison with admission system of undergraduate education. China, South Korea, Taiwan, and Japan were focused in this study. As the result of study, it was clarified that there was a certain similarity between two systems in each countries and that, comparing with admission system of undergraduate education, many kinds of selection method more based on strategy of every institution (or selection unit) had been adapted in admission system of graduate education in any country.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	900,000	270,000	1,170,000
2011年度	900,000	270,000	1,170,000
2012年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総計	2,700,000	810,000	3,510,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教育社会学

キーワード：教育学，東アジア，大学院，入学者選抜，中国，台湾，韓国，高等教育

1. 研究開始当初の背景

2005年の中央教育審議会答申「新時代の大学院教育—国際的に魅力ある大学院教育の構築に向けて」などでも謳われているように、わが国では「知識基盤社会」への移行や科学技術創造立国の実現のため大学院におけ

る人材養成機能の強化が焦点の急となっている。大学院教育の一定の量的拡大が図られる中で、現在の議論や改革の焦点は、優れた科学技術人材をいかに養成・確保するか、また大学院教育をいかに実質化するかという点に当てられている。それとともに、グロー

バル化の進展に伴って学位の国際的通用性に対する要請が高まり、国際的な水準での教育研究機能のさらなる強化とともに、大学院教育の質保証が求められるようになっていく。

わが国に限らず、東アジア諸国・地域では近年、学士課程段階の大幅な拡大もふまえて、大学院教育の見直しが行われるとともに、大学院段階の量的拡大が急速に進められている。それによって、従来大学院に進学すると想定された層ではない者が入るようになり、入学者の質にばらつきが生じるおそれがある。また、社会人や外国人など従来とは異なる入学希望者も増加する。大学院段階における教育研究機能の強化を図るには、教育課程の見直しや制度の整備とならんで優秀な入学者を確保することが必要であることから、それに向けた対応や取り組みが各国・地域で進められていることが考えられる。それにもかかわらずこれまで、わが国では東アジア諸国・地域の大学院教育や大学院入学者選抜制度を扱った研究は限定的であった。

これに加えて、申請者はこれまで東アジア地域における大学入学者選抜制度の比較研究を進めてきた。それによれば現在東アジア諸国・地域ではわが国と同様の多様性指向が観察される一方で、具体的な制度設計や個別機関の対応には違いも見られることが明らかになっている。こうした選抜制度の変化が大学入学段階にのみ生じているのか、それとも大学院入学段階でも同様に生じているのかを分析すれば、入学者選抜という視点から東アジア諸国・地域の高等教育の変容をより明確にすることができるのではないかと考えた。

2. 研究の目的

本研究を進めるにあたって、まず下図のような分析枠組みを設定した。

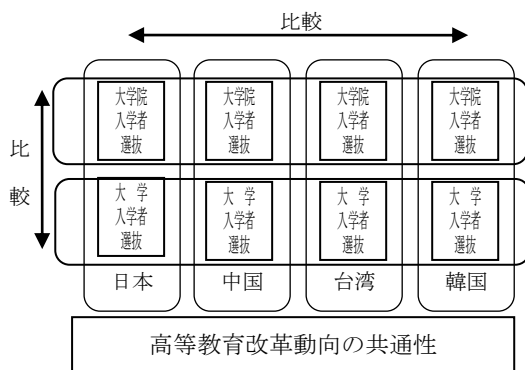


図 分析枠組み

そのうえで本研究の目的を、東アジア諸国・地域の大学院入学者選抜制度を対象とし、

各国・地域の大学院入学者選抜制度の概要と特徴、改革動向を整理するとともに個別機関の対応を分析することを通じて、大学入学者選抜制度との異同も視野に入れながら各国・地域の共通点と相違点を明確にすること、またそれを手がかりとして東アジア諸国・地域における高等教育改革の動向を明らかにすることとした。主たる研究対象は、中国、韓国、台湾及びわが国である。

3. 研究の方法

本研究は次のような方法で進めた。まず、先行研究及び現地で発行・公表されている政府文書や統計資料、また新聞・雑誌記事などを利用して文献研究を行い、各国・地域の高等教育制度及び大学院教育制度、それから大学院入学者選抜方法の概要や改革動向を整理、分析した。

また、現地で個別機関を対象に聞き取り調査を行い、国レベル及び機関レベルで大学院入学者選抜が具体的にどのように行われているのか、どのような改革が進められているのかといった点について具体的な情報を収集した。個別機関に関する情報収集は、本研究の一環として諸国を訪問した際の聞き取り調査のみならず、それ以外の訪問機会、それから対象国の研究者が来日した機会などもとらえて精力的に行った。

さらに、以上の過程で収集した情報や得られた知見にもとづき、比較の観点から各国の共通点や相違点を抽出して、これらの国における大学院入学者選抜制度の特徴を考察し、あわせて各国の大学入学者選抜制度と比較検討することによって、学部段階と大学院段階での選抜の異同を分析し、高等教育の段階ごとの特質を明らかにしようとした。

4. 研究成果

本研究において明らかになったこととして、大きく次の4点を挙げることができる(詳細については、5に〔図書〕①として挙げた研究成果報告書を参照されたい)。

(1) 入学者選抜制度の背景となる高等教育制度全体の変容として、①量的拡大と②個別大学における自主権の拡大が確認された。

①制度の量的拡大では、台湾と韓国では、1990年代以降に学士課程・準学士課程も修士課程も大きく拡大し、相対的な規模では日本を上回るまでになった。この両国に比べると、日本での拡大は比較的緩やかである。中国は人口が大きいことから相対的規模は大きいとは言えないが、絶対的な規模では他を圧倒するまでになった。

②従来は、政府が高等教育に直接的に関与し、

コントロールすることによってその規模や質を維持・確保するとともに、国や社会の発展に貢献させようとしてきた。しかし今日では、大学に関する規制が徐々に緩和され、制度上各大学が自ら決定できる事柄が増えてきている。

(2) 各国の大学院入学者選抜制度の現状と改革動向を分析した結果、それぞれ次のような特徴を有することが明らかになった。

①日本では、文部科学省から出される実施要項に依拠しながら、多様な実施状況になっている。実施方法はもちろん、日程や提出書類なども研究科により様々であるし、同一大学内のみならず、同じ学問領域でも大学によって異なった様相を示している。ただし、選抜方法にはある程度の共通性も見られ、ほとんどの場合筆記試験が課され、しかも外国語と専門科目の学力が測られている。基本的な形式として「筆記試験（外国語＋専門科目）＋口頭試験（口述試験）」となっている研究科が多い。自然科学系分野を中心に外国語（英語）の成績として外部試験の結果が用いる募集単位も見られる。

②中国では、教育部（わが国の文部科学省に相当）が全体的な方針や規定を定め、全国统一試験の実施を組織するほか、各省の新生募集委員会が当該地区の碩士（わが国の修士に相当）課程大学院生募集の管理活動に責任を負う体制となっている。選抜の過程では、大学として第2次試験の日程等が調整される。選抜方法では、政治理論や外国語、数学といった基礎科目が全国统一試験として課されるほか、一部の専門科目も全国统一で実施されるようになってきている。各大学で出題される他の科目とあわせて学力筆記試験で第1次選抜が行われ、各大学で実施される面接試験などの第2次試験で合格者が決定される。

③台湾では、教育部（わが国の文部科学省に相当）が法規を策定して大枠を定め、大学レベルにおいても、募集要項が統一的に作成されるとともに、出願、試験実施、合格者発表などの時期がある程度まとめられているし、いくつかの試験科目が全学レベルで作成されている。各募集単位はその中で選抜方法を決定する。学力筆記試験を主体とする一般的なルートに加えて、選抜審査試験が導入されているが、特に後者の選抜を行うかどうかは募集単位によって異なっているし、それぞれのルートで行われている選抜方法も募集単位ごとに多様である。

④韓国では、教育科学技術部（わが国の文部科学省に相当）はほとんど役割を果たしておらず、各大学が全学的に大きな枠組みを定め、たうえでそれぞれの募集単位が実際の選抜方法を決めている。選抜方法としては、筆記

試験の重要性が低く、出願時に英語能力の証明として外部試験の成績を求めたり、面接試験（口述試験）の結果が比較的重視されたりしている点が特徴的である。

(3) 大学入学者選抜制度の状況もふまえて各国の大学院入学者選抜制度の特徴を比較検討した結果、横断的に見れば、各国における大学入学者選抜と大学院入学者選抜の間には一定の共通性が存在していることが明らかになった。最も典型的なのは中国で、どちらの選抜においても教育部の強い指導のもと全国型の学力筆記試験を核とした制度設計がなされている。また台湾では、統一的な法規が定められ、統一的な枠組みで両者の選抜が実施されている。学力筆記試験の比重が比較的高い点や、学力試験を中心とする選抜と多様な選抜方法を利用する選抜が併存している点も共通している。これらの国に比べると、日本と韓国では政府の果たす役割が小さく、選抜方法の決定が各大学（募集単位）の手により大きく委ねられている。こうした共通性は、各国において高等教育を受ける者をどのように選抜するのか、選抜の指標として何に注目するのが適切かといった点で一定の考え方があることを想定させる。

(4) 一方、大学入学者選抜と大学院入学者選抜という段階に着目すれば、どの国でも大学院入学者選抜の方が大学（募集単位）の自主性に基づく選抜方法が選択されている。そして、日本はやや傾向が異なるものの、大学院入学者選抜の方が相対的に学力筆記試験の比重が低く、面接試験を重視する度合いが高い。これは、学士課程段階と大学院課程段階とで必要とされる能力が異なるか、それを測るのに必要な手段が異なると考えられていることを示唆している。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計7件）

①南部広孝・白銀研五，ベトナムと中国における教育普及政策の展開—特別なニーズをもつ子どもへの対応を中心に—，京都大学大学院教育学研究科紀要，査読有，第59号，2013年，125-148頁。

②南部広孝，文革後中国における才能教育の展開—教育普及政策下での取り組みを中心に—，比較教育学研究，査読有，第45号2012年，52-65頁。

③南部広孝・渡辺雅幸，インドと中国における大学入学者選抜制度—現状と改革動向の比較的分析—，京都大学大学院教育学研究科

- 紀要, 査読有, 第 58 号, 2012 年, 19-42 頁。
- ④南部広孝・廖于晴, 台湾における高等教育の構造分析, 大学論集, 査読有, 第 43 集, 広島大学高等教育研究開発センター, 2012 年, 155-167 頁。
- ⑤南部広孝, 香港におけるトランスナショナル高等教育の展開, 比較教育学研究, 査読有, 第 43 号, 2011 年, 62-74 頁。
- ⑥南部広孝, 東アジア諸国における高大接続—大学入学者選抜方法の改革に焦点をあてて—, 高等教育研究, 査読有, 第 14 集, 2011 年, 151-167 頁。
- ⑦南部広孝・関口洋平, 社会主義国の体制移行に伴う教育変容—ベトナムと中国を中心に—, 京都大学大学院教育学研究科紀要, 査読有, 第 57 号, 2011 年, 1-24 頁。

〔学会発表〕(計 3 件)

- ①南部広孝, 日本高等教育国際化—以接收 30 萬名留学生計劃為主, 2011 大陸教育座談会, 2011 年 10 月 31 日, 台中教育大学 (台湾), 中国語。
- ②南部広孝, 中国大陸大学招生制度改革—与東亜国家的比較 (Keynote speaker), 2011 大陸教育學術研討会, 2011 年 10 月 29 日, 台中教育大学 (台湾), 中国語。
- ③南部広孝, 東アジアにおける高等教育の質保証—中国の大学卒業認定と学位授与を中心に— (小講演(1)), 第 17 回大学教育研究フォーラム, 2011 年 3 月 17 日, 京都大学。

〔図書〕(計 7 件)

- ①南部広孝, 京都大学大学院教育学研究科, 東アジア諸国・地域における大学院入学者選抜制度の比較研究 (研究成果報告書), 2013 年, 計 106 頁。
- ②袁貴仁総主編, 張秀琴本冊主編, 高等教育出版社 (中国), 外国人看中国教育, 2012 年, 127-136 頁 (「中国大学招生制度改革—与日本的比較」), 中国語。
- ③北村友人・杉村美紀編, 上智大学出版, 激動するアジアの大学改革—グローバル人材を育成するために—, 2012 年, 15-28 頁 (「中国 (一) —質の全体的な底上げと一流大学の形成を目指す教育大国」), 183-195 頁 (「ブータン—「近代化」の波が押し寄せる「幸福の国」」)。
- ④辻本雅史・袁振国監修／南部広孝・高峽編, 京都大学学術出版会, 東アジア新時代の日本の教育—中国との対話—, 2012 年, 計 370 頁。
- ⑤有本章編, 玉川大学出版部, 変貌する世界の大学教授職, 2011 年, 166-179 頁 (「労働条件」)。
- ⑥江原武一・南部広孝編, (財) 放送大学教育振興会, 現代教育改革論—世界の動向と日本のゆくえ, 2011 年, 計 241 頁。

- ⑦勞凱声・山崎高哉共編, 春風社, 日中教育学対話Ⅲ, 2010 年, 65-99 頁 (「日本における大学教育の多様化」)。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

南部 広孝 (NANBU HIROTAKA)
京都大学・大学院教育学研究科・准教授
研究者番号: 70301306

(2) 研究分担者

()

研究者番号:

(3) 連携研究者

()

研究者番号: